

取扱説明書

お買い上げまことにありがとうございます。
この取扱説明書を必ずお読みのうえ正しく
お使いください。

お読みになった後はお使いになる方がいつ
でも見られる所に大切に保管してください。



もくじ

ページ

取扱編

安全のために必ずお守りください……	1 ~ 2
各部のなまえ……	3
運転方法……	3
安全装置について……	5
日常の点検・お手入れのしかた……	5
保管方法……	7
次のシーズンに使用するとき……	7

工事編

付属品の確認……	8
据え付け場所……	8
据え付け上のご注意……	9
据え付け方法……	9
配管まへの準備……	10
配管方法……	11
据え付け・配管後の確認……	11
オーバーフロー管の配管……	12
故障・異常の見分けかたと処置方法……	13
仕様……	14
アフターサービスについて……	14
保証書……	裏表紙

取扱編 安全のために必ずお守りください

ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための重要事項を警告・注意に分けて示します。必ずお守りください。



警告

取り扱いを誤ると、死亡または重傷などを負う可能性があります。

お守りいただく内容を次の絵表示で区別しています。



してはいけないこと（禁止）を示します。



必ずすること（強制）を示します。



注意

取り扱いを誤ると、傷害または物的損害が発生する可能性があります。



警告



ガソリン禁止

- ガソリン厳禁
ガソリンなど揮発性の高い油は絶対に使用しない
火災の原因になります。



必ず実施

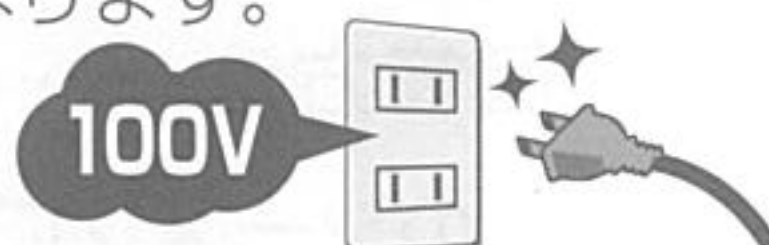
- 据え付け・配管・電気工事は専門業者がこの取扱説明書にしたがって実施する
ご自分で据え付け工事をされ不備があると感電・火災・灯油漏れの原因になります。

電源プラグや電源コードについて



必ず実施

- 交流 100V のコンセントを使う
交流 200V の電源で使うと感電・火災の原因になります。



- 電源プラグはほこりが付着していないか確認し、刃の根元まで確実に差し込む
感電・ショートによる火災の原因になります。6 ヶ月に 1 度電源プラグを抜き、刃部のホコリを取り除いてください。



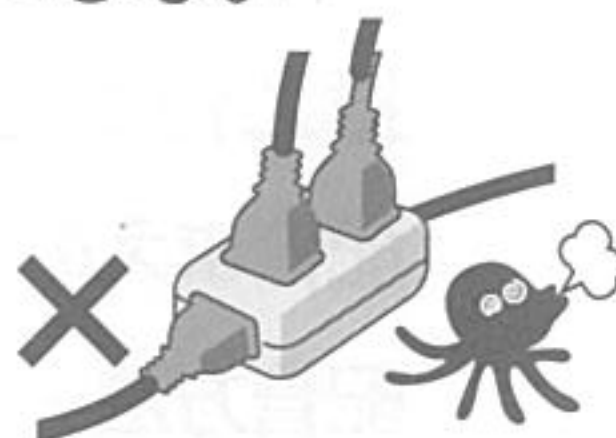
ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない
感電の原因になります。



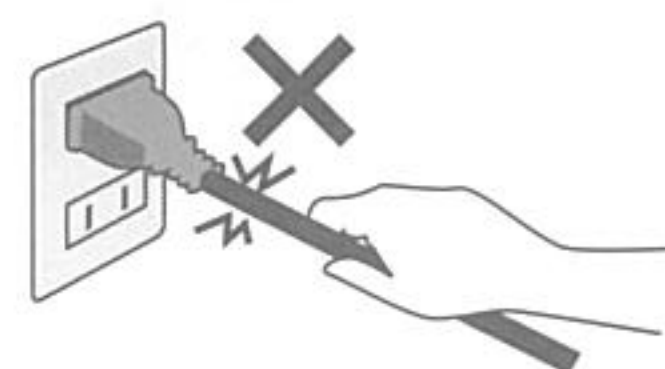
禁止

- 電源はタコ足配線にしない
発熱による火災の原因になります。



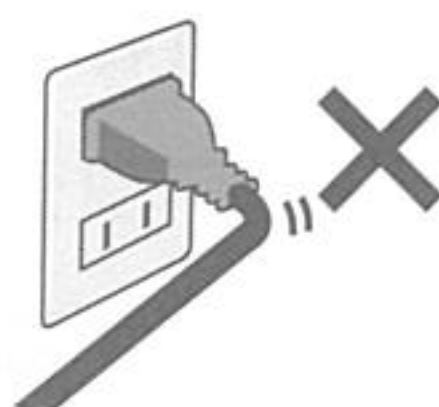
- 電源コードを持って電源プラグを抜かない（必ず電源プラグを持つ）

電源コードに傷がつき感電・ショートによる火災の原因になります。



- 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、強く束ねたり、ひっぱったり、重いものをのせたり、加工したり、足に引っ掛かるような状態にしない

電源コードが傷み感電・火災の原因になります。



- 電源コードや電源プラグは傷んだまま使わない

感電・ショートによる火災の原因になります。



警告

事故を避けるために



分解禁止



必ず実施

●お客様ご自身で分解したり修理改造はしない

異常動作による感電・火災・けがの原因になります。

●定期点検の実施

本体・配管に油漏れなどが無い、定期的に点検をしてください。

長期間使用されますと、経年劣化による故障の原因になります。

お買い上げの販売店などに依頼し、定期的に点検をしてください。

※修理は販売店にご相談ください。

注意

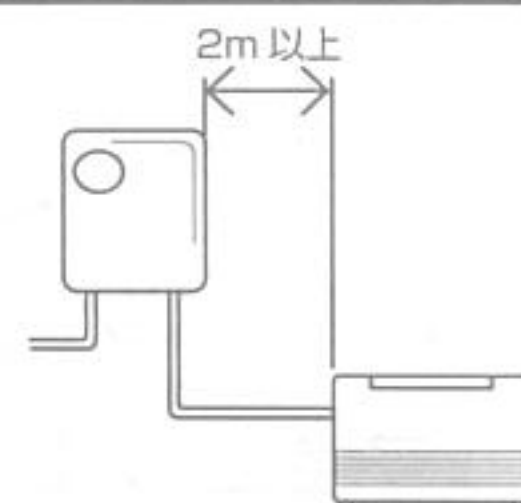
据え付け・配管



必ず実施

●ストーブなど燃焼器具から 2m 以上離れた場所に据え付ける

燃焼器具の排気筒などに触れたり、近すぎるところへは据え付けしないでください。変形・火災の原因になることがあります。



●据え付け・配管は取扱説明書に従って安全・確実に行う

誤った据え付けや配管は火災や重大な事故につながる可能性があります。

燃料



必ず実施

●灯油（JIS 1 号灯油）を必ず使用する

汚れた灯油・水の混じっている灯油・変質灯油などは絶対に使用しないでください。火災や故障の原因になることがあります。

●灯油は必ず火気・高温・直射日光・雨水・ゴミをさけた場所に保管する

火災や故障の原因になることがあります。

●メインタンクの掃除を洗浄機で行うときは、メインタンクのバルブを閉じるか配管をはずす

圧力が加わると故障の原因になることがあります。

使用



必ず実施

●取扱説明書をよく読み、内容をよく理解してから使用する

取扱説明書には使いかたのほか、警告・注意事項の説明が書いてあります。内容をよく理解してからご使用ください。

警告・注意事項にしたがわないと重大な事故につながる可能性があります。

●補助タンクや他の容器などへ給油することは絶対にしない

補助タンクなどの給油口から灯油があふれ出て重大な事故につながる可能性があります。

●芯上下式ストーブなどの内蔵タンクに接合給油することは絶対にしない

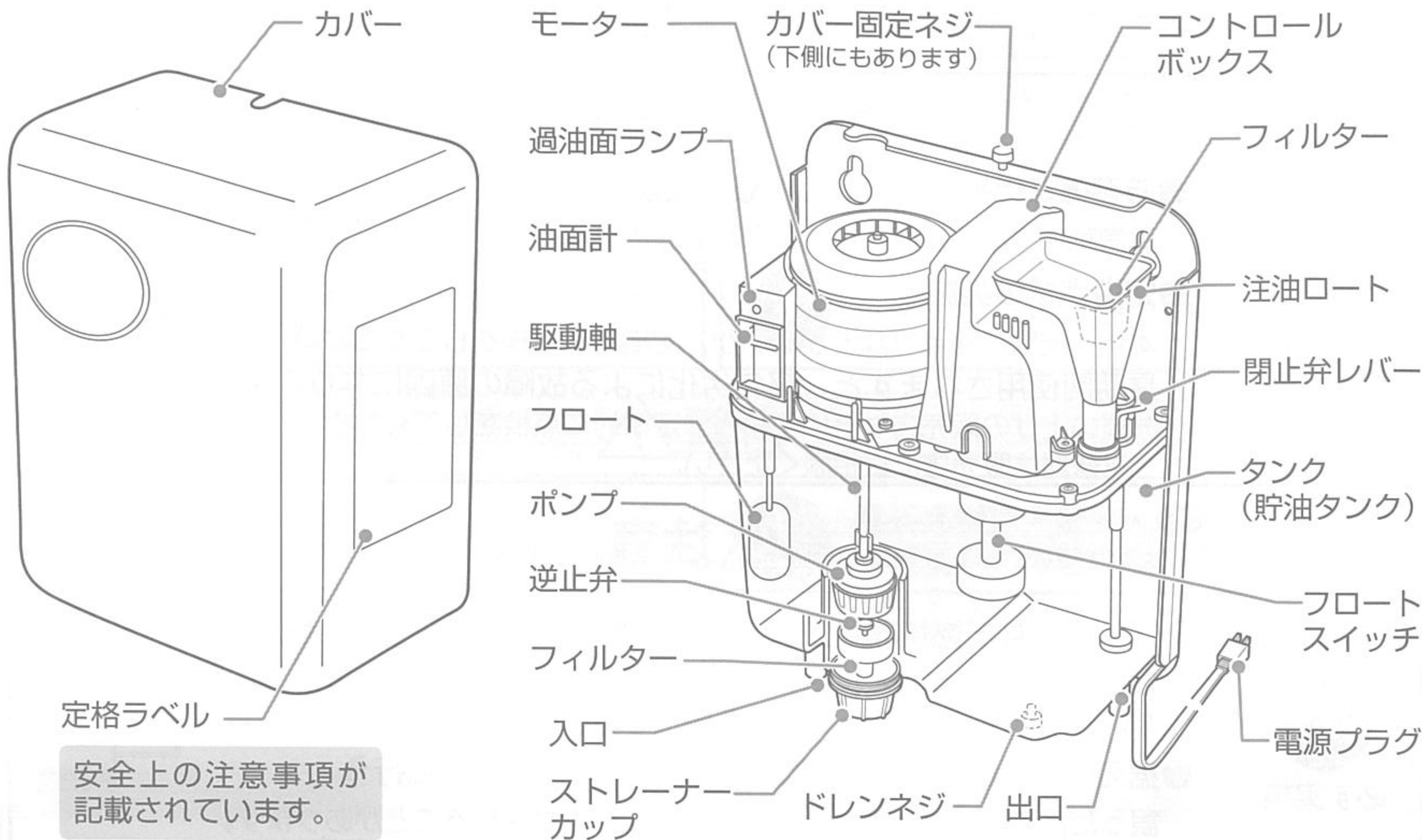
灯油があふれて、火災の原因になることがあります。

重要

本製品は落差式で燃焼器具へ給油する製品ですので、定油面器や電磁弁などの油量制御器を備えたストーブなどでないと使用できません。



各部のなまえ



運転方法

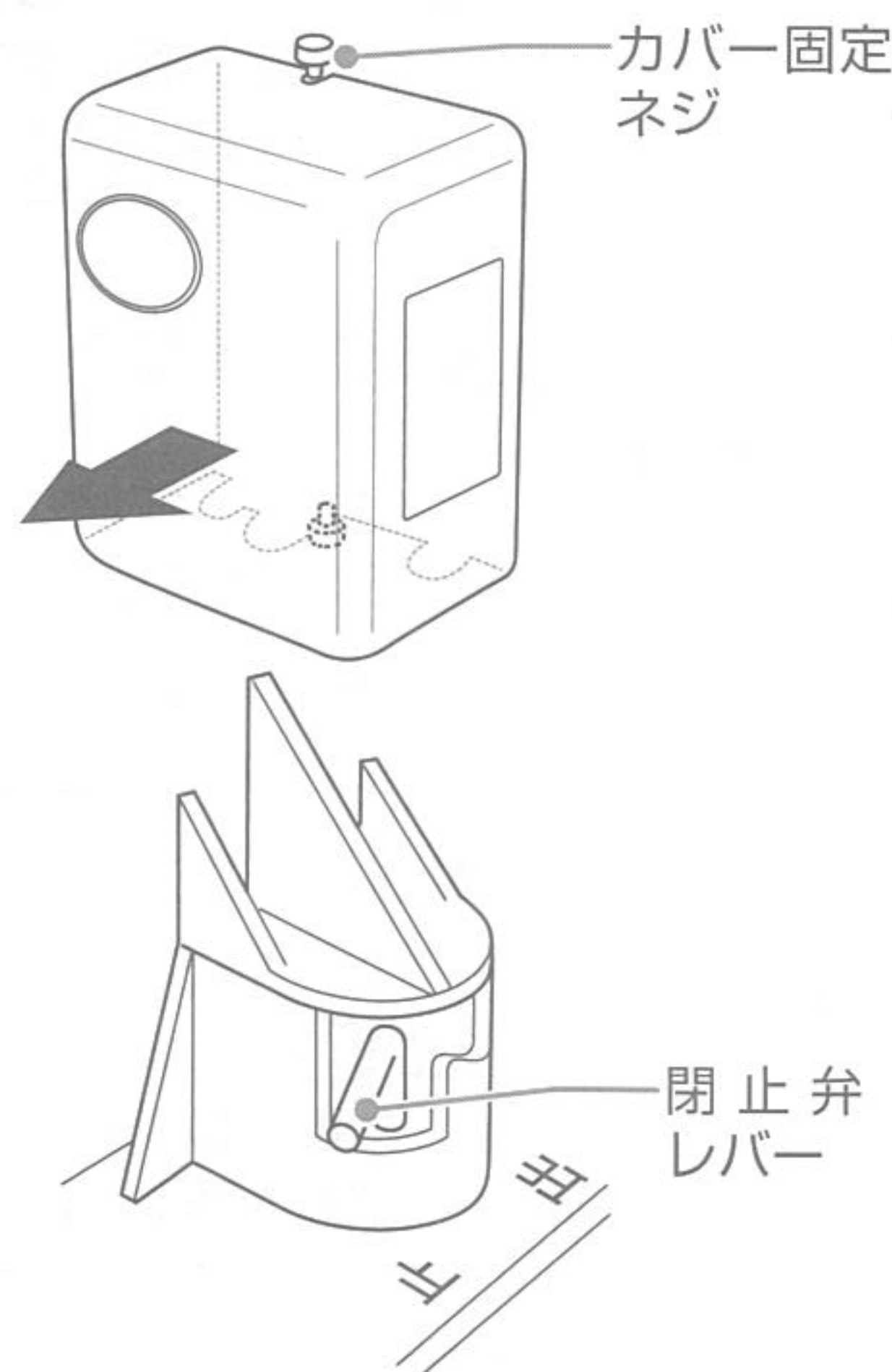
- ご使用のまえに工事編 (P.8 ~) にしたがって正しく据え付け、配管がなされているか確認してから、次の順序で運転してください。

- 1 カバーの上下にある、カバー固定ネジ 2 本をゆるめ、カバーを取りはずす

- 2 閉止弁レバーを『止』にする

閉止弁について

閉止弁レバーを『止』にすると燃焼器具への灯油の供給を止めることができます。点検・お手入れなどの灯油の供給を止めたいときにご使用ください。



3 呼び灯油を注入する

①注油ロートより、呼び灯油を約 800ml 注入します。

お願い

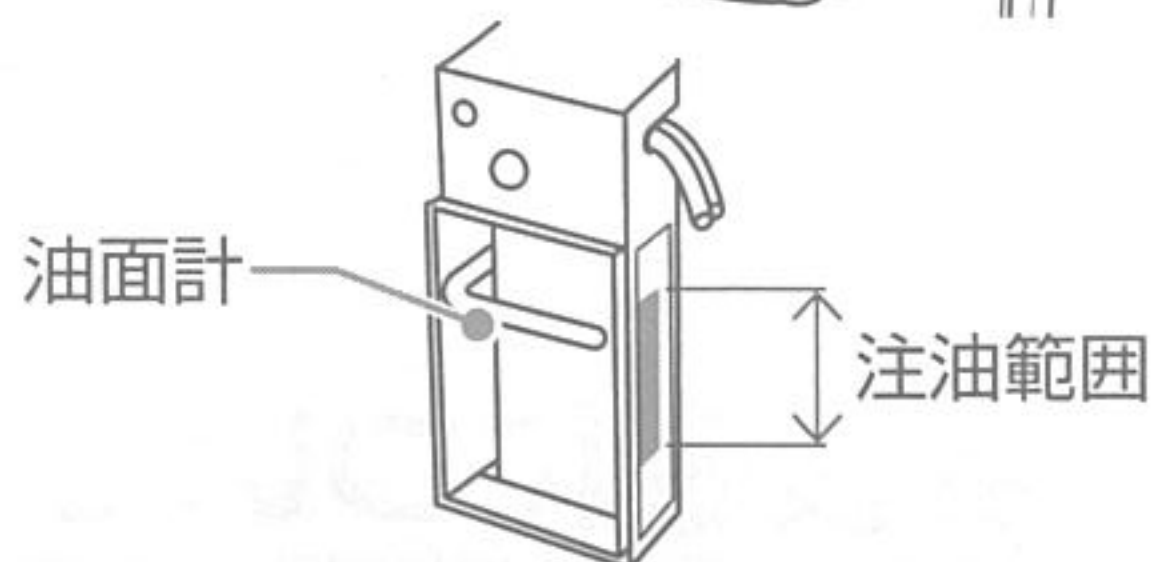
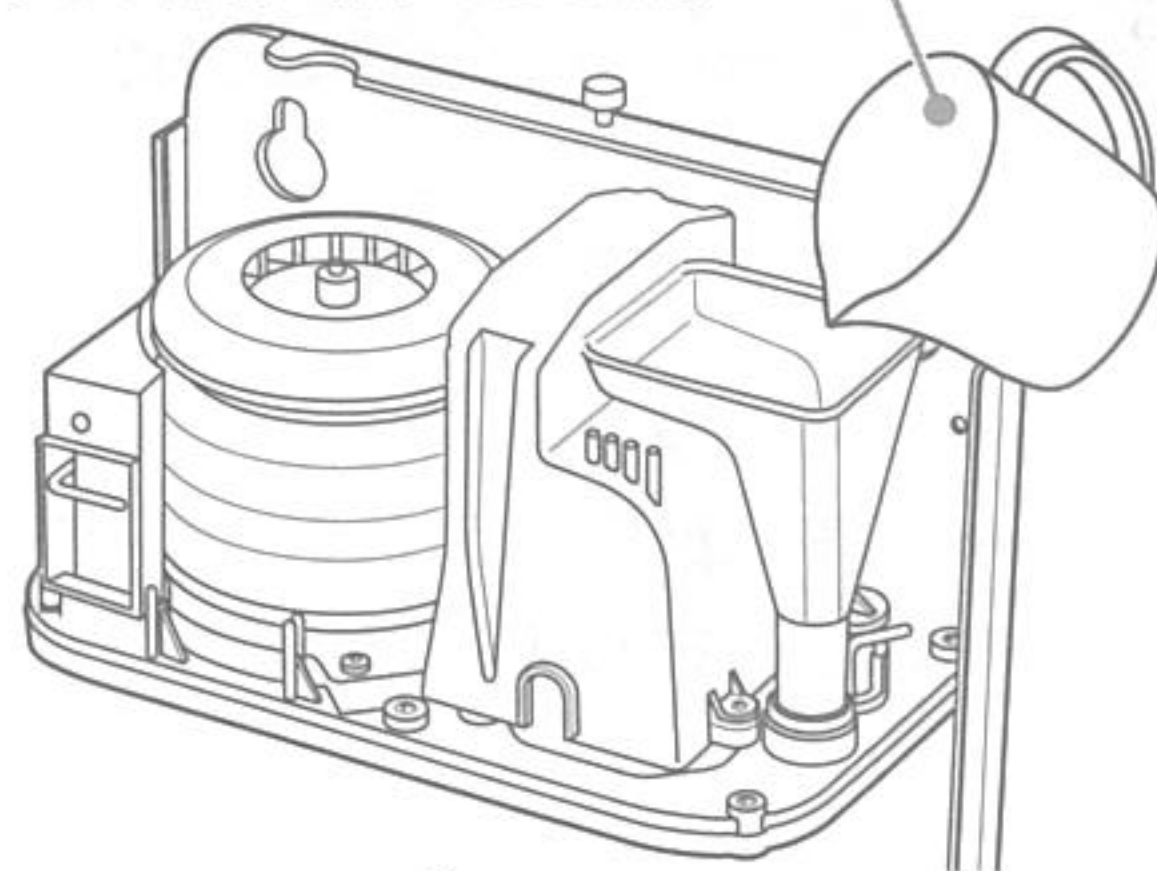
注油ロートより灯油があふれないように静かに注入してください。

②油面計が注油範囲に入ったら呼び灯油の注入をやめます。

重要

呼び灯油を入れすぎるとモーターが回転しないことがあります。この場合は P.5 の『あふれ防止装置』にしたがって油面計が注油範囲になるようにしてください。

呼び灯油（約 800ml）



4 電源プラグをコンセントに差し込む

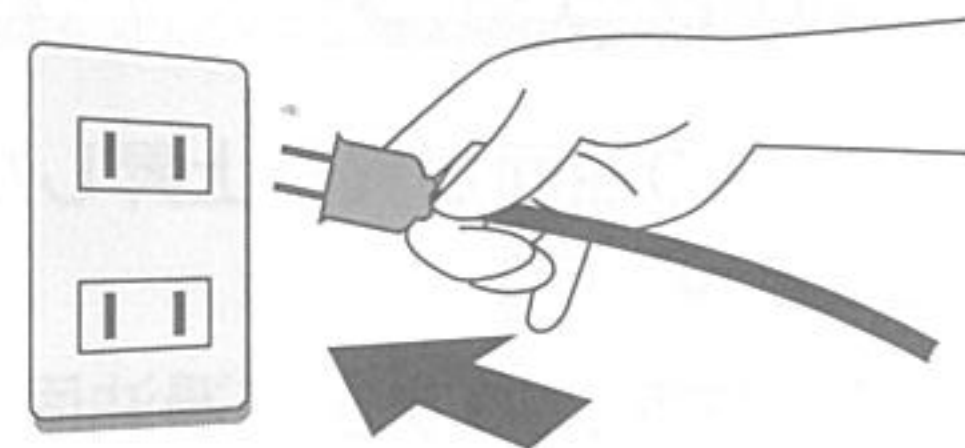
■モーターが回転してポンプが運転します。

警告



ぬれ手禁止

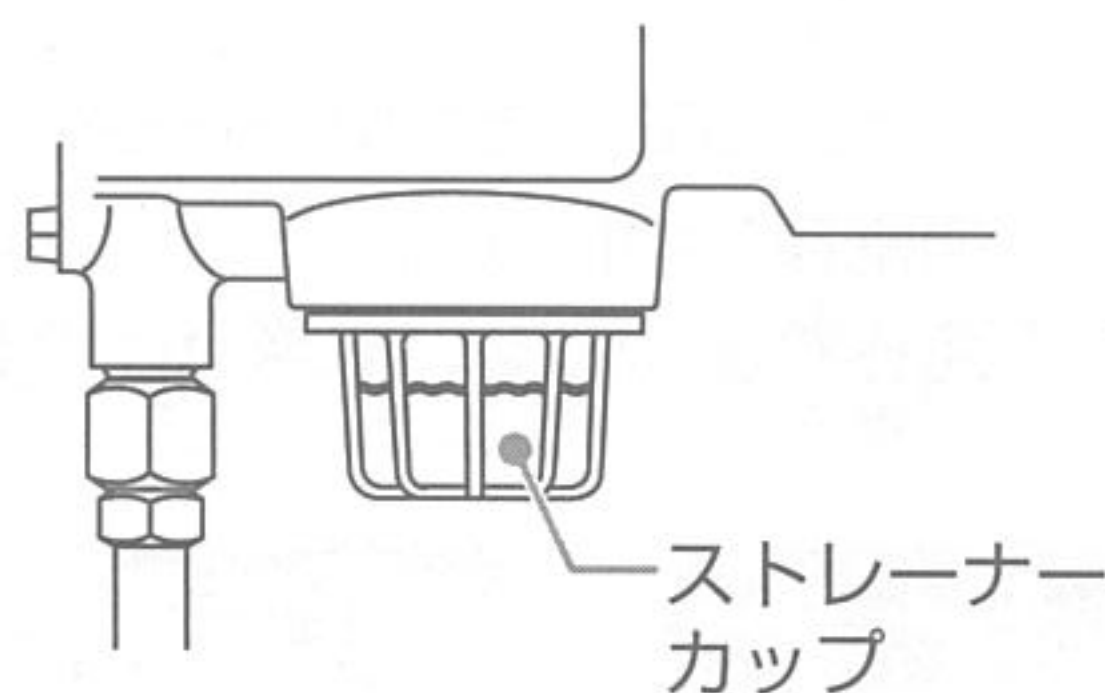
●ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない
感電の原因になります。



5 メインタンクから灯油が吸いあがることを確認する

■灯油が吸いあがりますとストレーナーカップが灯油で満たされます。

吸いあげ時間は約 5 ～ 10 分必要です。
メインタンクとオイルリフターの距離、配管の長さなどにより異なります。

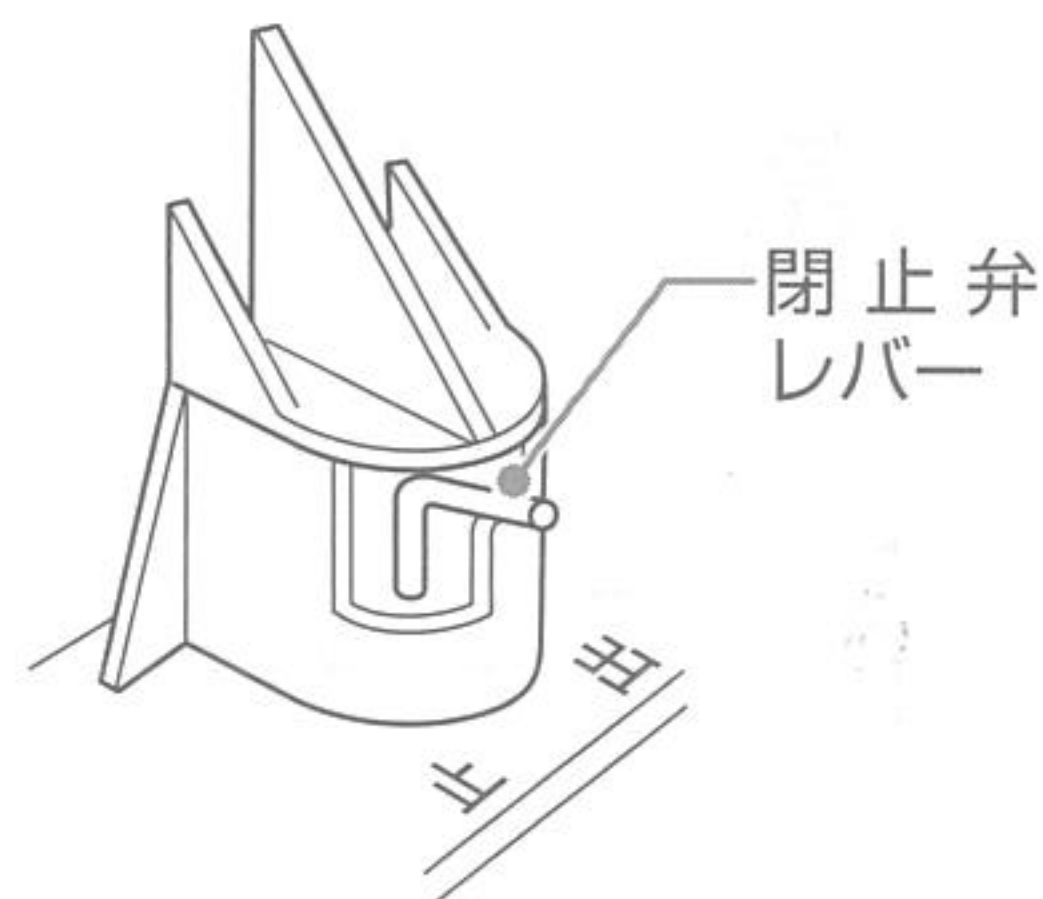


6 タンク内に灯油がたまり、モーターが停止することを必ず確認する

7 閉止弁レバーを指で引きあげて『出』にする

お願い

本体の各部や入口側・出口側の配管から、灯油漏れがないことを必ず確認してください。



8 カバーをもと通りに取りつける

注意

カバーでモーターの冷却ファンを押さないように注意してください。

以後は、自動的に運転・停止を繰り返し燃焼器具に灯油を供給します。

運転方法

油面計が下がってしまったとき

- モーターが回転しているのに油面計が下まで下がってしまったときは次のことを確認してください。

- メインタンクが空になっていないか。
- 接続燃焼器具の台数が多すぎないか。
- 灯油漏れしていないか。

これらを確認した後、一旦電源プラグを抜き、P.3の『運転方法』にしたがって再度呼び灯油を行い運転してください。それでも油面計が下がってしまう場合は、お買い上げの販売店へご相談ください。



安全装置について

あふれ防止装置(過油面ランプ)

- タンク内の油面が異常上昇したとき、過油面ランプが点灯し運転を停止します。

- ① 呼び灯油を入れすぎて過油面ランプが点灯したときは電源プラグを抜き、閉止弁レバーを『出』にして燃焼器具へ給油するか、タンク下部のドレンネジをはずして灯油を抜き、油面計が注油範囲になるようにしてください。(P.6の『タンク内の水抜き』をご覧ください。)
- ② 通常運転中に過油面ランプが点灯したときは、電気部品の故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。



モーター過熱防止装置(温度ヒューズ)

- 万一、モーターロックなどでモーターが異常に過熱したときはモーターに内蔵されている温度ヒューズが溶断してモーターの運転が停止し、油面計が下がります。このようなときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

日常の点検・お手入れのしかた

警告



分解禁止

点検・お手入れのとき、次のことは絶対にしない

- モーター・ポンプの取りはずしや分解
- コントロールボックスの取りはずしや分解

異常動作による感電・火災・けが・故障の原因になります。



電源プラグを抜く

- 点検・お手入れのときは電源プラグを抜く

感電・けがの原因になります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

フィルターの清掃

■ フィルターにゴミがつまったら、次の要領で清掃してください。

- ①電源プラグをコンセントから抜きます。
- ②カバーの上下にある固定ネジをゆるめ、カバーを取りはずします。
- ③ストレーナーカップを左に回しタンクから取りはずします。

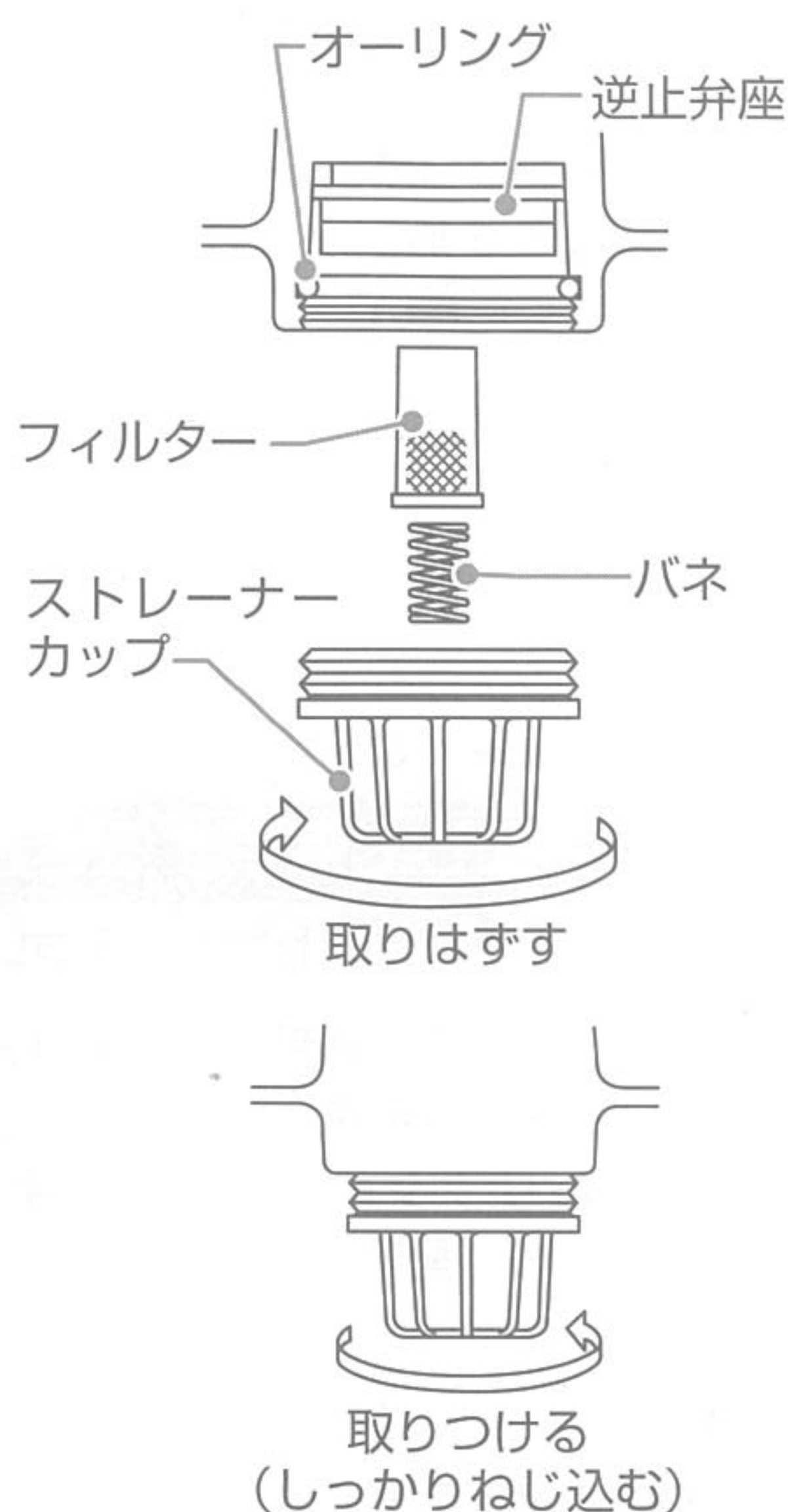
少量の灯油が出ますので、受皿または使い古しのタオルなどをあててください。

- ④フィルターを取りだし、きれいな灯油でよく洗います。
- ⑤ストレーナーカップ内にたまった水、ゴミなどをきれいな灯油で洗い流します。
- ⑥フィルターを逆止弁座にセットし、ストレーナーカップにバネを入れ、タンクにしっかりねじ込みます。

重要

ねじ込みがゆるいと、吸いあげ不良や灯油漏れの原因になりますので、しっかりねじ込んでください。

- ⑦電源プラグを差し込み、灯油の吸いあげと灯油漏れのないことを確認してから、カバーをもと通りに取りつけます。



タンク内の水抜き

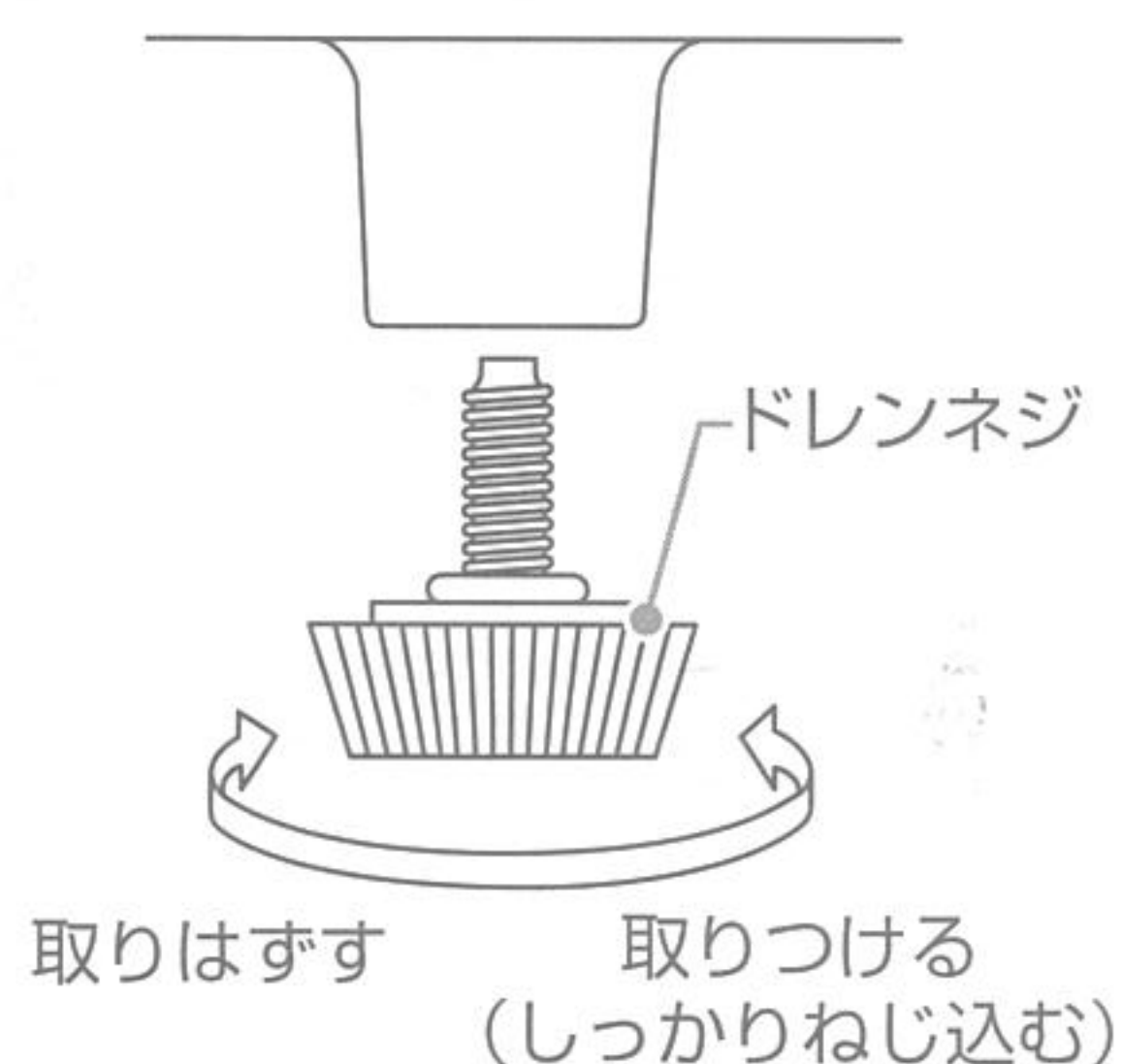
■ オイルリフターのタンク内には水（ドレン）がたまります。シーズン初めや、本体内に水が入ったと判断できるときは必ず水抜きを行ってください。

- ①電源プラグをコンセントから抜きます。
- ②カバーの上下にある固定ネジをゆるめ、カバーを取りはずします。
- ③タンク下部にあるドレンネジを取りはずします。

注意

ドレンネジを取りはずすと同時に約 1.3L の灯油が出ますので必ず灯油受けの容器（2L 以上）をあててください。

- ④タンク内の灯油と水が全て出たら、ドレンネジをしっかりとねじ込みます。
- ⑤ P.3 の『運転方法』にしたがって、呼び灯油を行い運転します。
- ⑥灯油漏れのないことを確認して、カバーをもと通りに取りつけます。



日常の点検・お手入れのしかた

本体外面のお手入れ

- 台所用中性洗剤（食器用・調理器具用）をお使いください。
- ベンジン、シンナー、クレンザー、金属製たわし、たわし、化学ぞうきんなどは表面を傷つけますので使用しないでください。
- 洗剤をうすめた水かお湯にやわらかいふきをひたし、よく絞ってからふきとってください。



保管方法

- シーズンオフなど長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、できるだけ設置したまま配管をはずさずに保管してください。

取りはずして保管するとき

- ① 電源プラグをコンセントから抜いて、カバーを取りはずします。
- ② タンク下部に灯油受けの容器（2L 以上）をあててから、ドレンネジをはずしてタンク内の灯油を抜いて空にします。
- ③ オイルリフターの入口側および出口側の配管をはずします。
（P.11 の『配管方法』をご覧ください。）

注 意

配管内に残った灯油が出ますので、灯油受けの容器または使い古しのタオルなどをあててください。

- ④ 閉止弁レバーが『出』になっていることを確認してから、カバーをもと通りに取りつけます。
- ⑤ はずした配管の端やオイルリフターの入口・出口はゴミや虫が入らないようにビニール袋などで覆って保管します。

次のシーズンに使用するときは

- 次のシーズンに再び使用するときは、次のようにしてください。

設置したまま保管したとき

- P.3 の『運転方法』にしたがって、オイルリフターを運転して灯油が吸いあがることを確認します。

取りはずして保管したとき

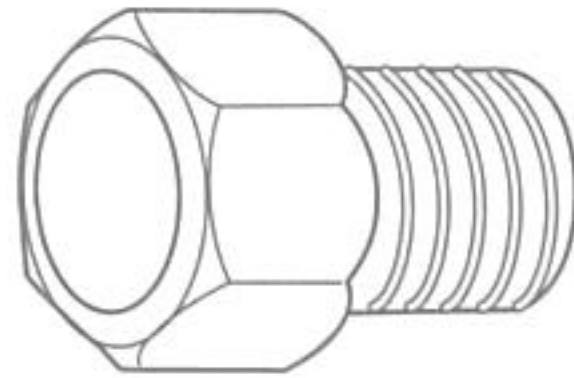
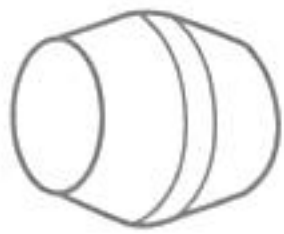
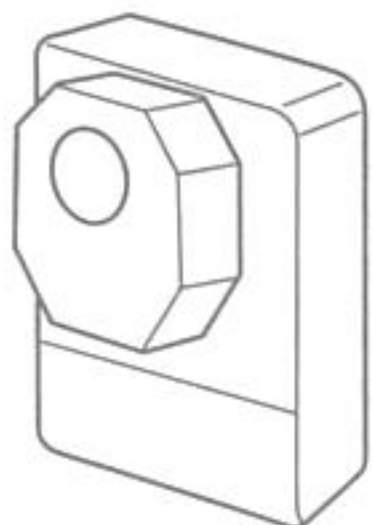
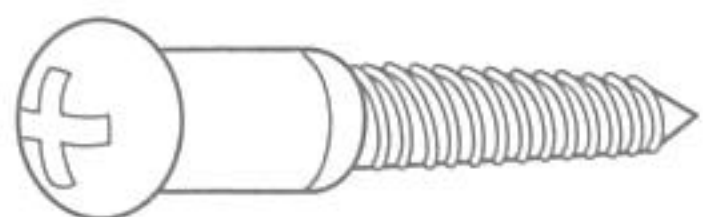
- ① カバーをはずし、P.11 の『配管方法』にしたがって、入口側および出口側の配管を行います。
- ② P.3 の『運転方法』にしたがって、呼び灯油を行ってからオイルリフターを運転し、灯油が吸いあがることを確認します。

重要

オイルリフターの配管各部より、油漏れのないことを必ず確認してください。

工事編 付属品の確認

- 据え付けするまえにポリ袋内の付属品と数量を確認してください。

					
管継手ニップル 2 個	カラー 2 個	ゴム座 3 個	丸木ネジ 3 個	座金 3 個	※使用方法是付属の 説明書にしたがっ てください。 吸込試験具 1 個

据え付け場所

屋内に据え付けるとき

- P.1 ~ P.2 をご覧になって、下記の点に注意して据え付け場所を選んでください。

- 必ず火気・高温・直射日光・ゴミをさけた場所に据え付けてください。
- 押し入れなど換気の悪い場所、寝室や書斎などわずかな音でも気になる場所へは据え付けしないでください。
- ストーブなど燃焼器具から 2m 以上離して据え付けてください。
- メインタンクに最短距離で配管できる位置を選んで据え付けてください。
- 安全で、かつ垂直で丈夫な壁・柱へ据え付けてください。

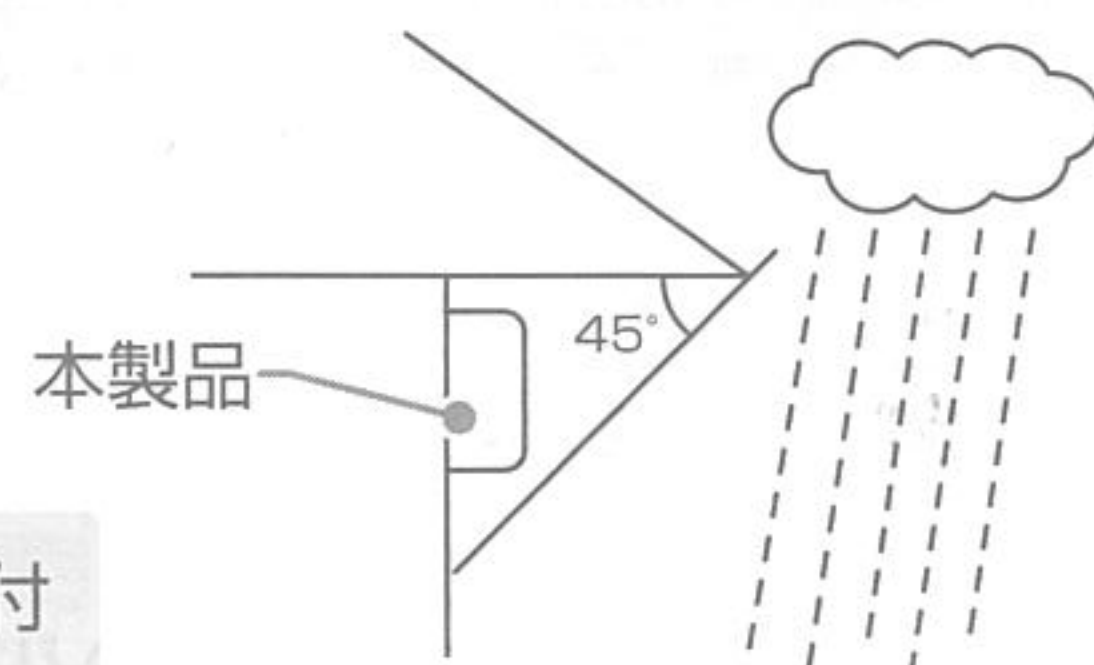
- 距離が長くなりますと、運転開始時やメインタンクの油切れ後などに灯油を吸いあげるまでに時間がかかります。
- 中空の壁などへ据え付けますと、共鳴音や振動が発生することがあります。

- 各地区におけるそれぞれの火災予防条例（消防署か役所に問い合わせる）で規定されている場合は、その基準にしたがってください。

屋外に据え付けるとき

- 別に屋外取付パーツ EP-P01 が必要です。

- 図のように必ずひさしのある場所へ、下記の点にも注意して屋外取付パーツの設置説明書にしたがって正しく据え付けてください。（屋外取付パーツ EP-P01 は別にお買い求めください。）

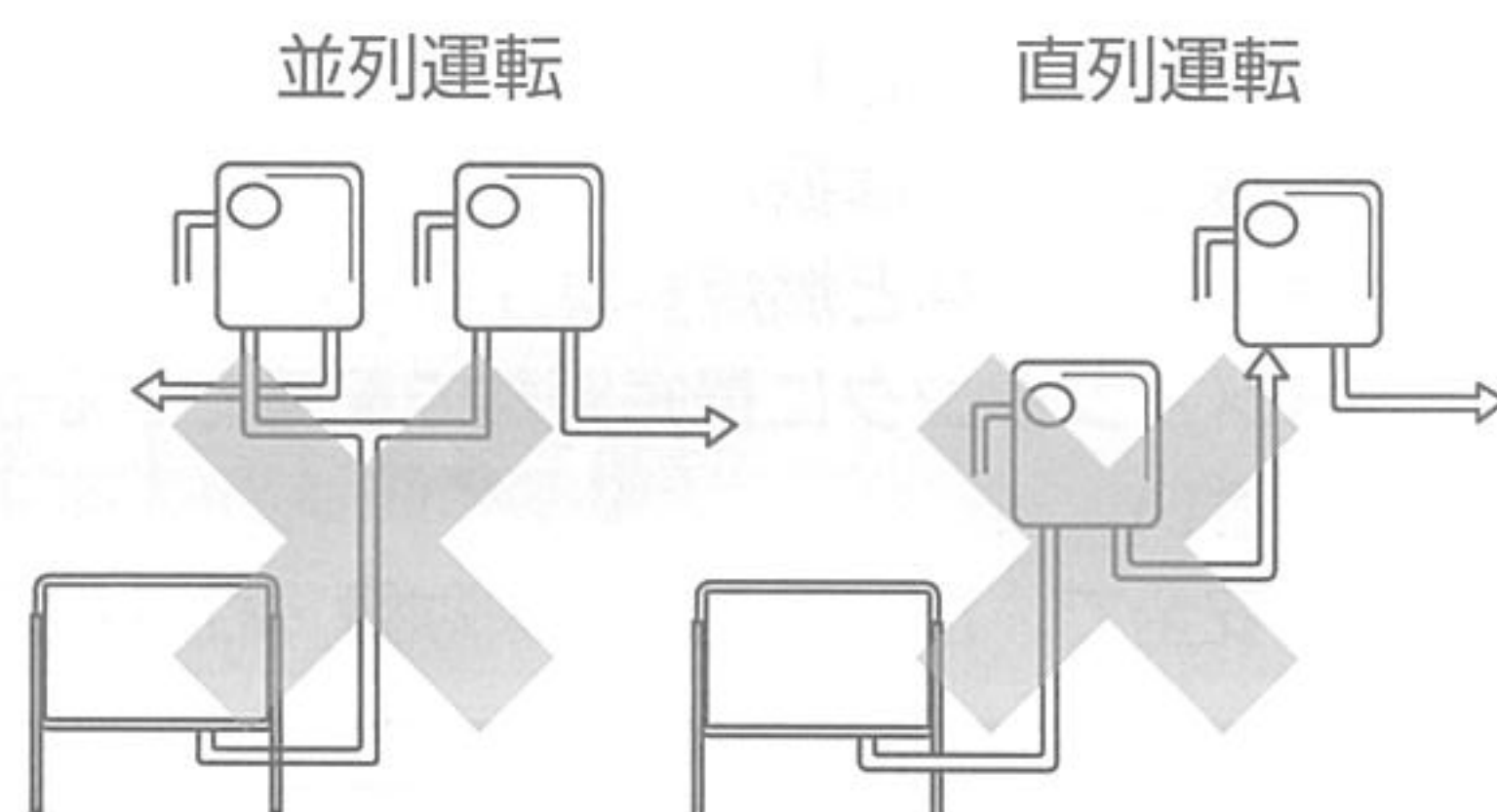
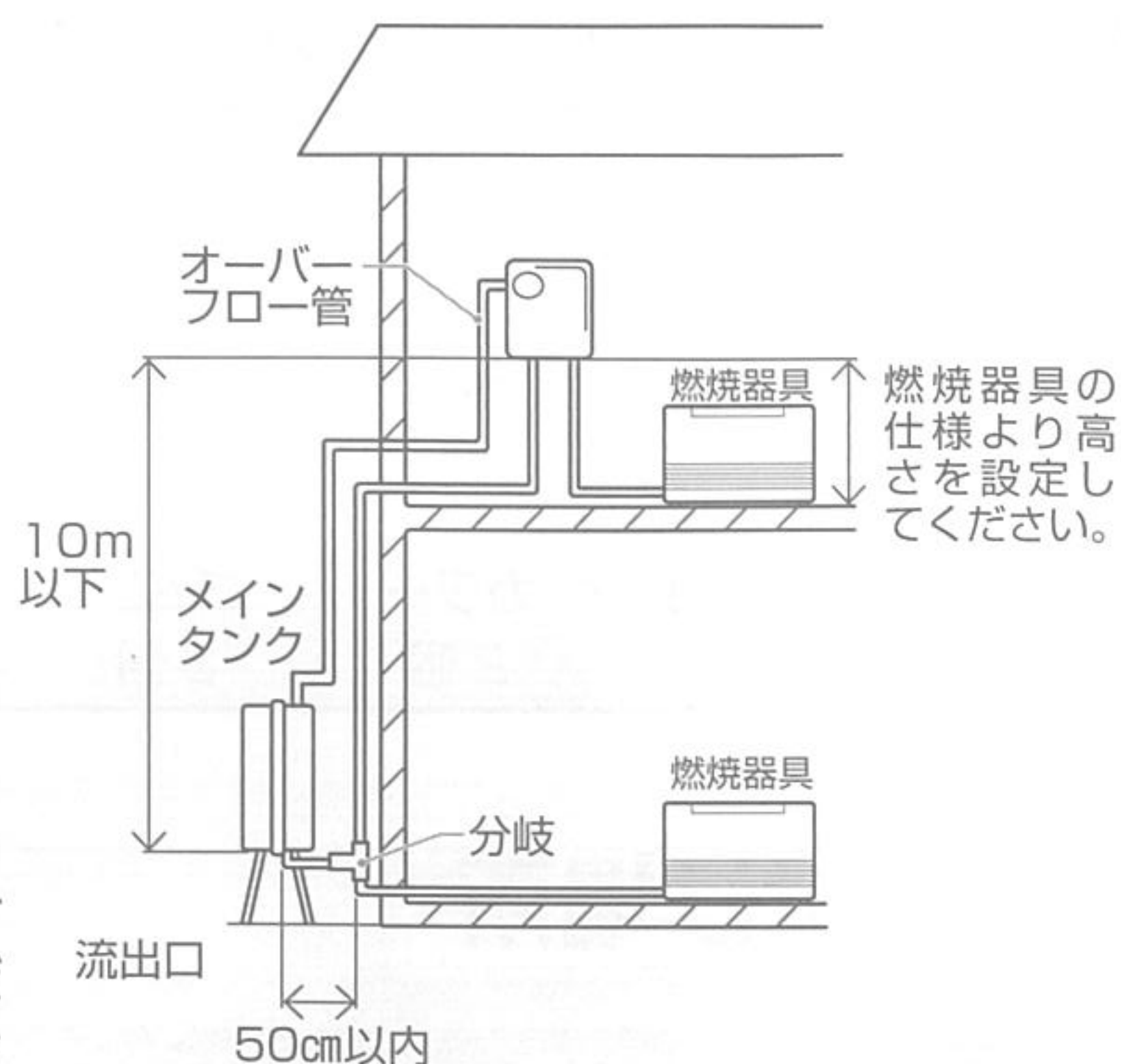


- 必ず、火気・高温・直射日光・雨・雪・ゴミをさけた場所に据え付けてください。
- 日常点検・お手入れのしやすい場所に据え付けてください。

据え付け上のご注意

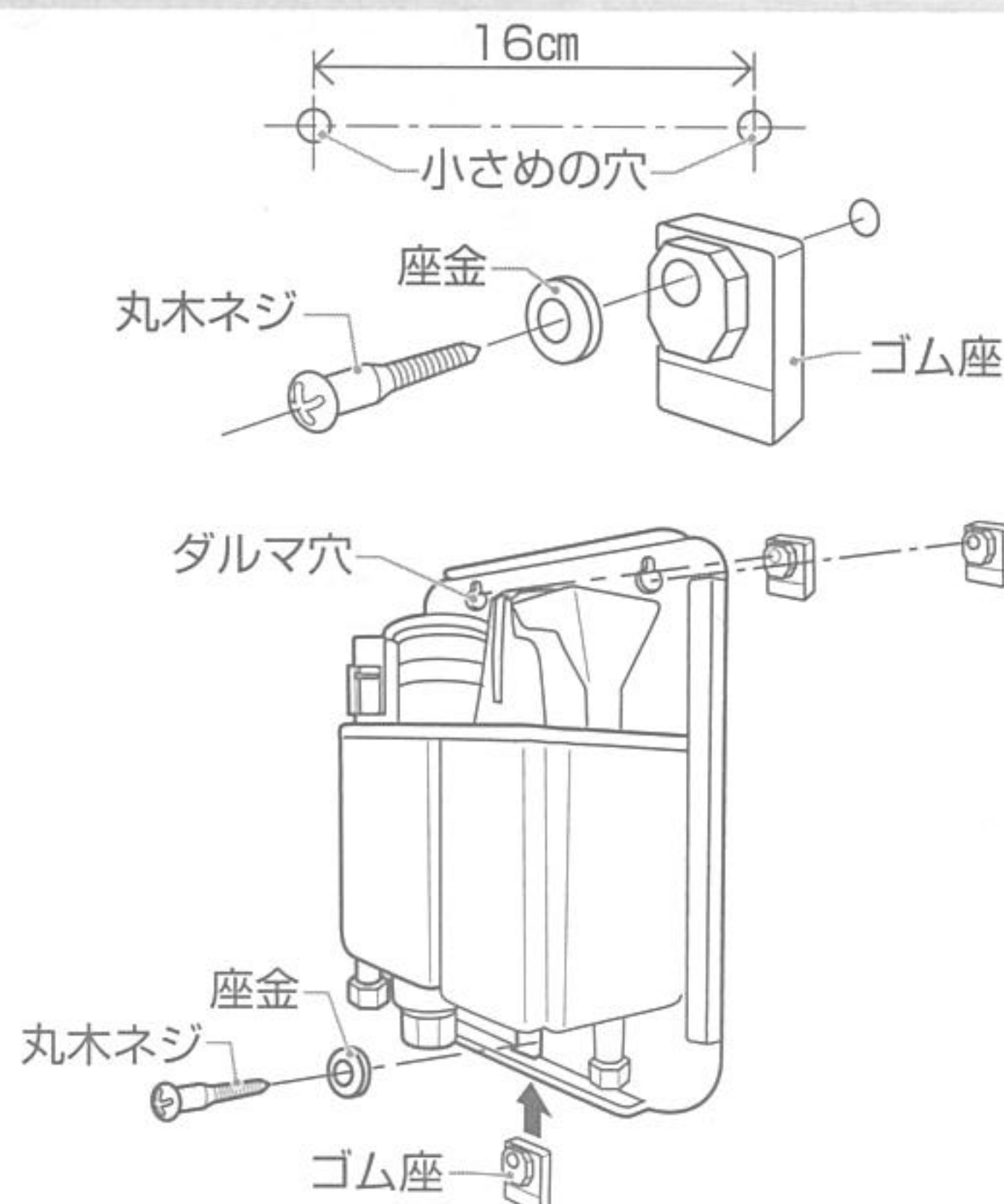
下記の点に注意して据え付けてください。

- 据え付け高さは次のようにしてください。
 - メインタンクの灯油流出口からオイルリフター下面までの高さは最高 10m ですが、横引きの長さや配管抵抗を考慮してできるだけ低くしてください。
 - 燃焼器具の据え付け床面からオイルリフター下面までの高さは各燃焼器具の仕様に合わせて据え付けてください。
- メインタンクからオイルリフターまでの配管全長は 40m 以下としてください。
- 1 台のオイルリフターで数台の燃焼器具に給油するとき、その燃焼器具の最大使用流量の合計が、オイルリフターの給油能力以内（P.14 の『揚程～流量特性』をご覧ください。）であれば給油可能ですが、出口側の配管抵抗などを考慮して能力の 1/2 程度を目安にして据え付けてください。また数台の燃焼器具を使用するときはオイルリフターはできるだけ中間に据え付けてください。
- 1 つのメインタンクから、各階に自然落差およびオイルリフターを使用して給油するとき、その分岐はメインタンクの灯油流出口にできるだけ近いところ（50cm 以内）で行ってください。
- オーバーフロー管の設置は P.12 の『オーバーフロー管の配管』にしたがってください。
- 2 台以上のオイルリフターの直列運転、並列運転は行わないでください。



据え付け方法

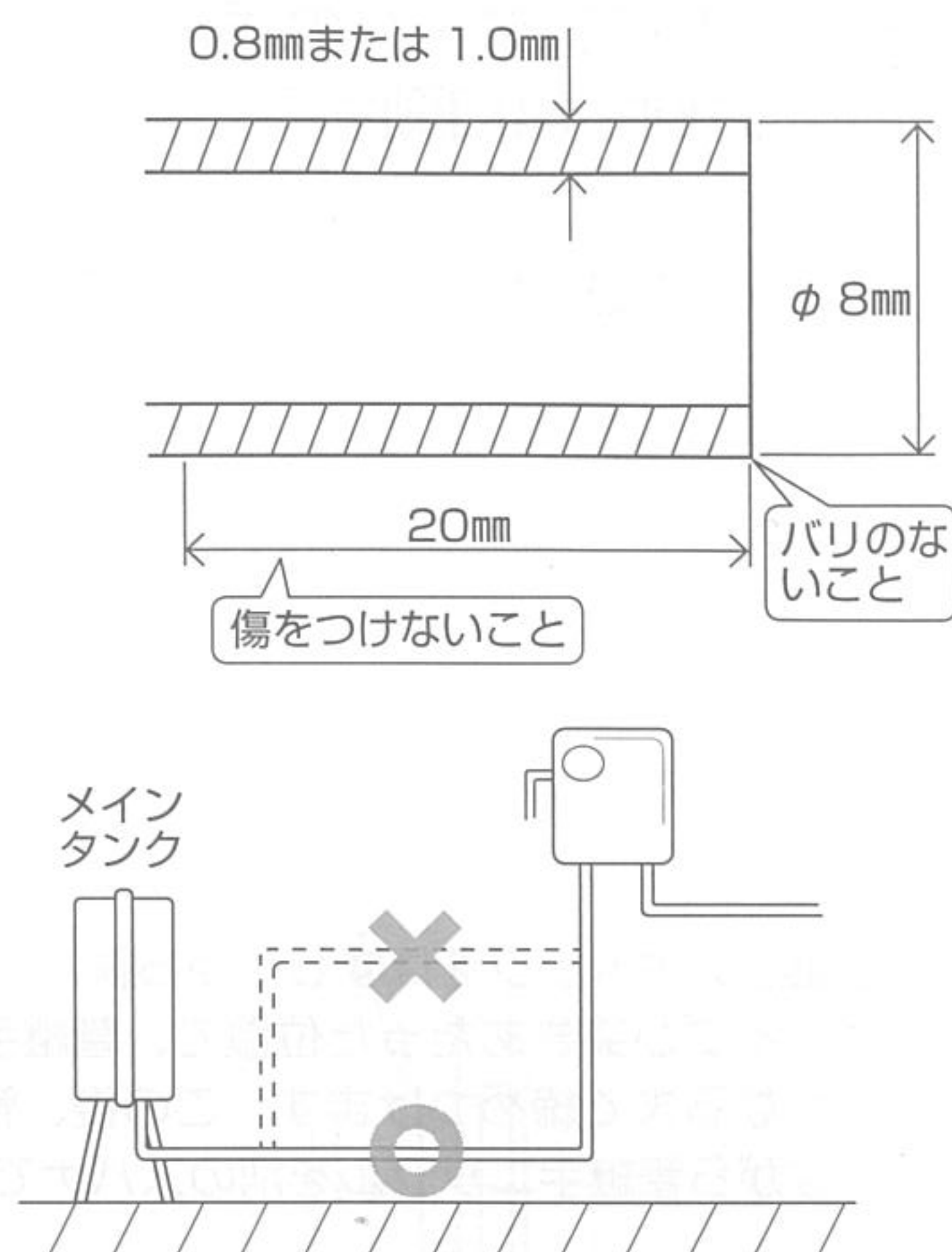
- ① オイルリフターを据え付ける壁か柱に水平に基準線を引き 16cm の間隔で小さな穴（約φ 3mm）を 2 か所あけます。
- ② 座金を通した丸木ネジでゴム座を取りつけます。（2 か所）
- ③ オイルリフターカバーを取りはずし、ゴム座を背面板の下部の穴に差し込みます
- ④ ②で取りつけたゴム座のミゾに、背面板上部のダルマ穴（2 か所）が確実に入るようにして引っ掛けます。③で取りつけたゴム座を座金を通した丸木ネジでしっかりと固定します。丸木ネジが締めつけにくいときは、注油ロートを取りはずしてください。注油ロートは上へ引っ掛けると取りはずせません。



配管まへの準備

P.1～2 をご覧になって、次のように配管してください。

- ① 入口側・出口側に配管する銅パイプは外径φ 8mm 肉厚 0.8mmまたは 1.0mmのものを使用してください。
 - ② 銅パイプの切断にはパイプカッターを使用し、切断面のバリはきれいに取り除いてください。
- 重要**
パイプ内に、ゴミや切粉などが入っていないかよく確認してください。
- ③ 切断面から 20mm の範囲内は特に傷をつけないように注意してください。
 - ④ 銅パイプの曲げは、必ず継手などによる接続のまえに行ってください。
 - ⑤ 入口側の横引き配管はできるだけオイルリフターの近くから立ちあげて配管してください。

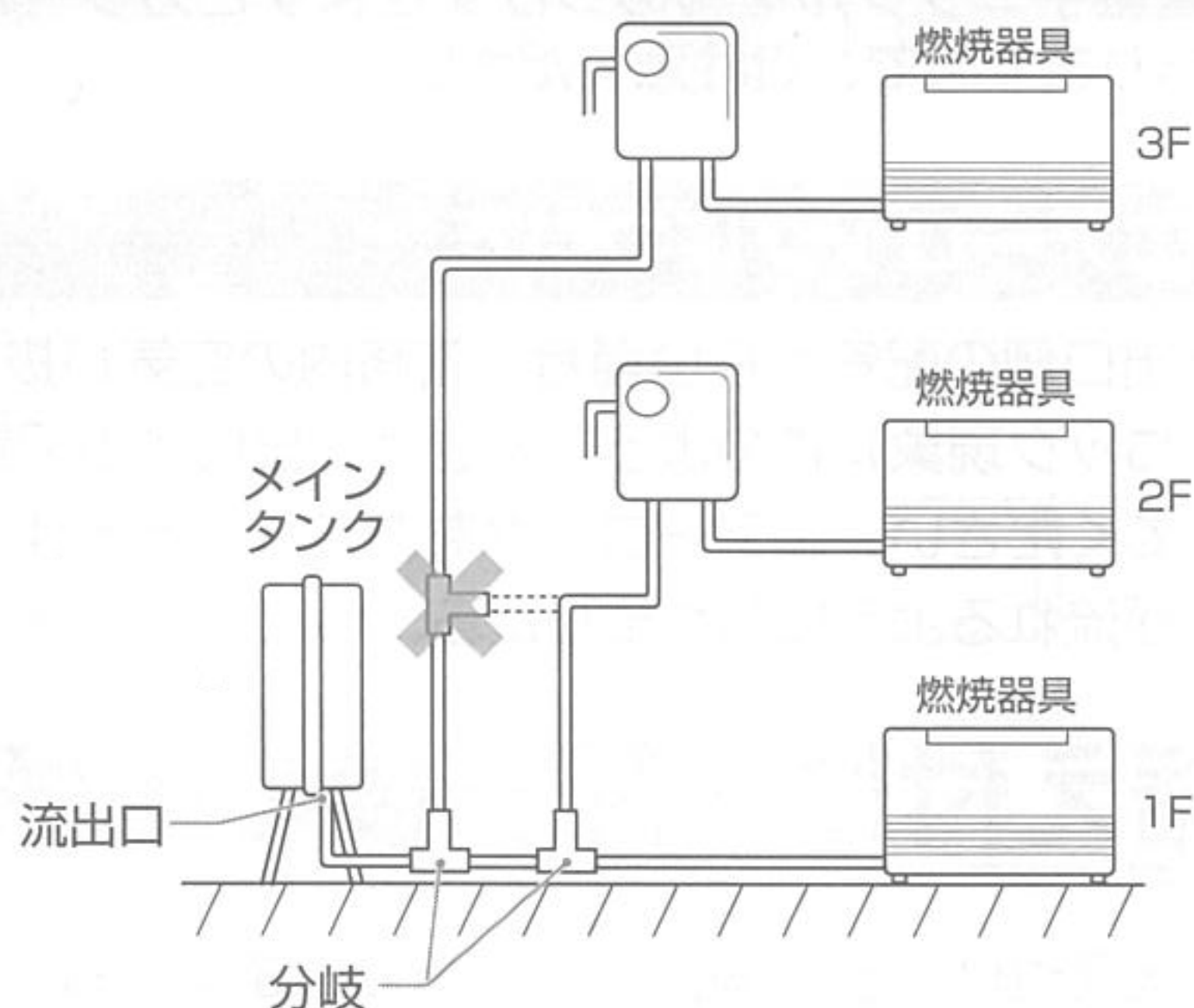


2 階および 3 階へ給油するとき

- メインタンクから 2 階および 3 階の燃焼器具に給油するときは、分岐点はメインタンクの流出口にできるだけ近い所から 2 階と 3 階に 2 本分岐してください。

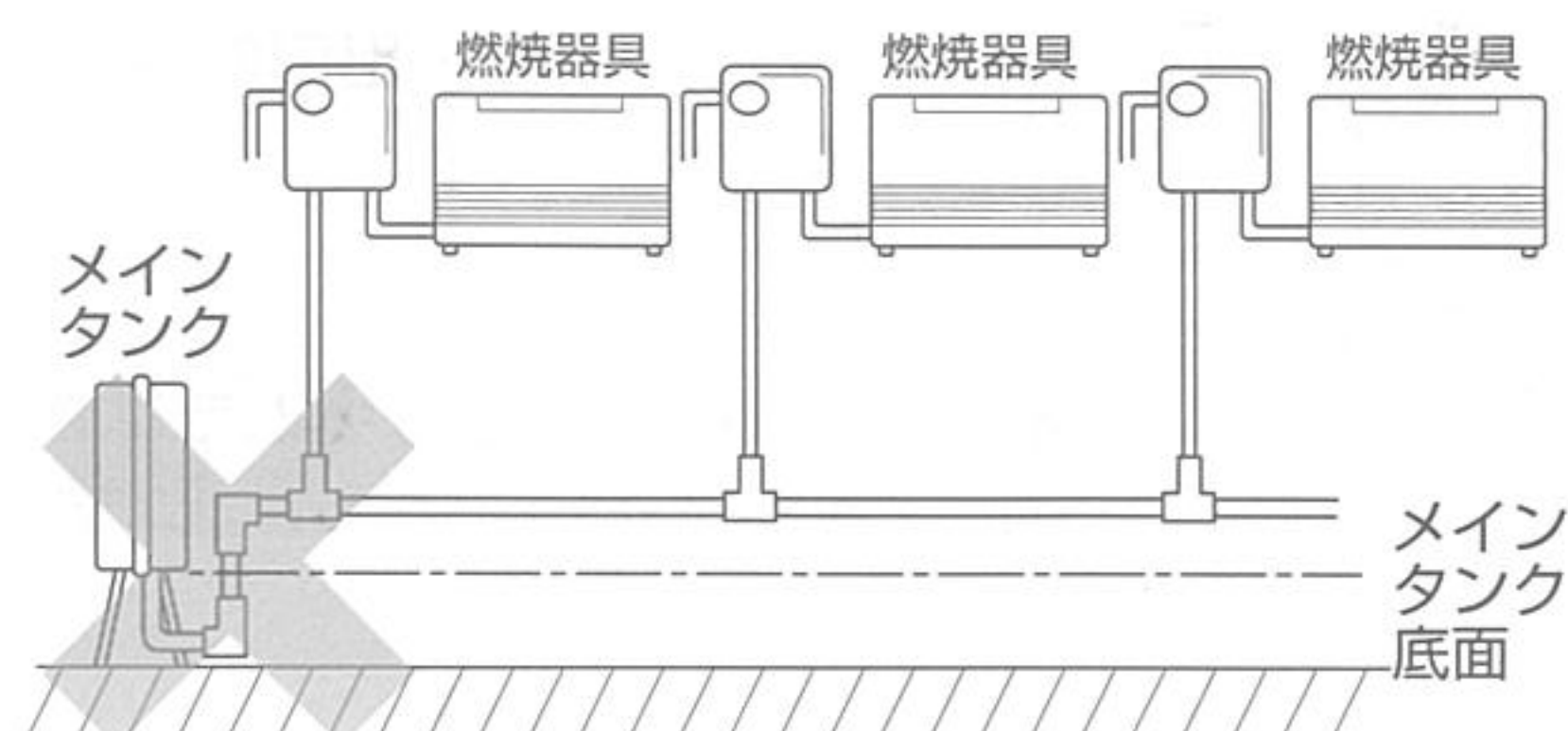
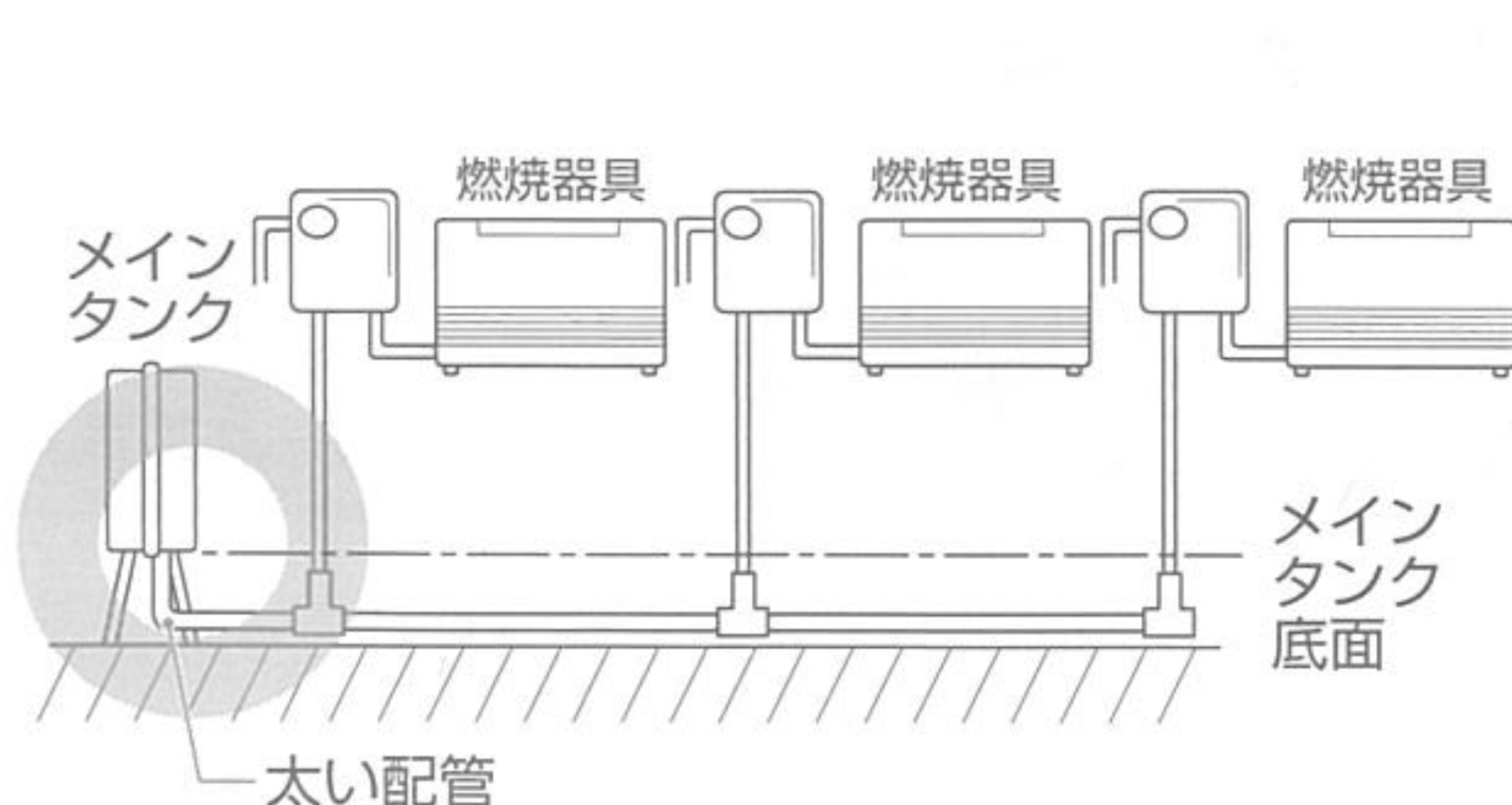
お願い

3 階への立ちあげ配管の途中から分岐して 2 階へ給油することはしないでください。



数台のオイルリフターを据え付けるとき

- 1 つのメインタンクから数台のオイルリフターを据え付けるときは、必ずメインタンク底面より下で太い配管を使用して横引き配管をして各オイルリフターに分岐してください。



配管方法

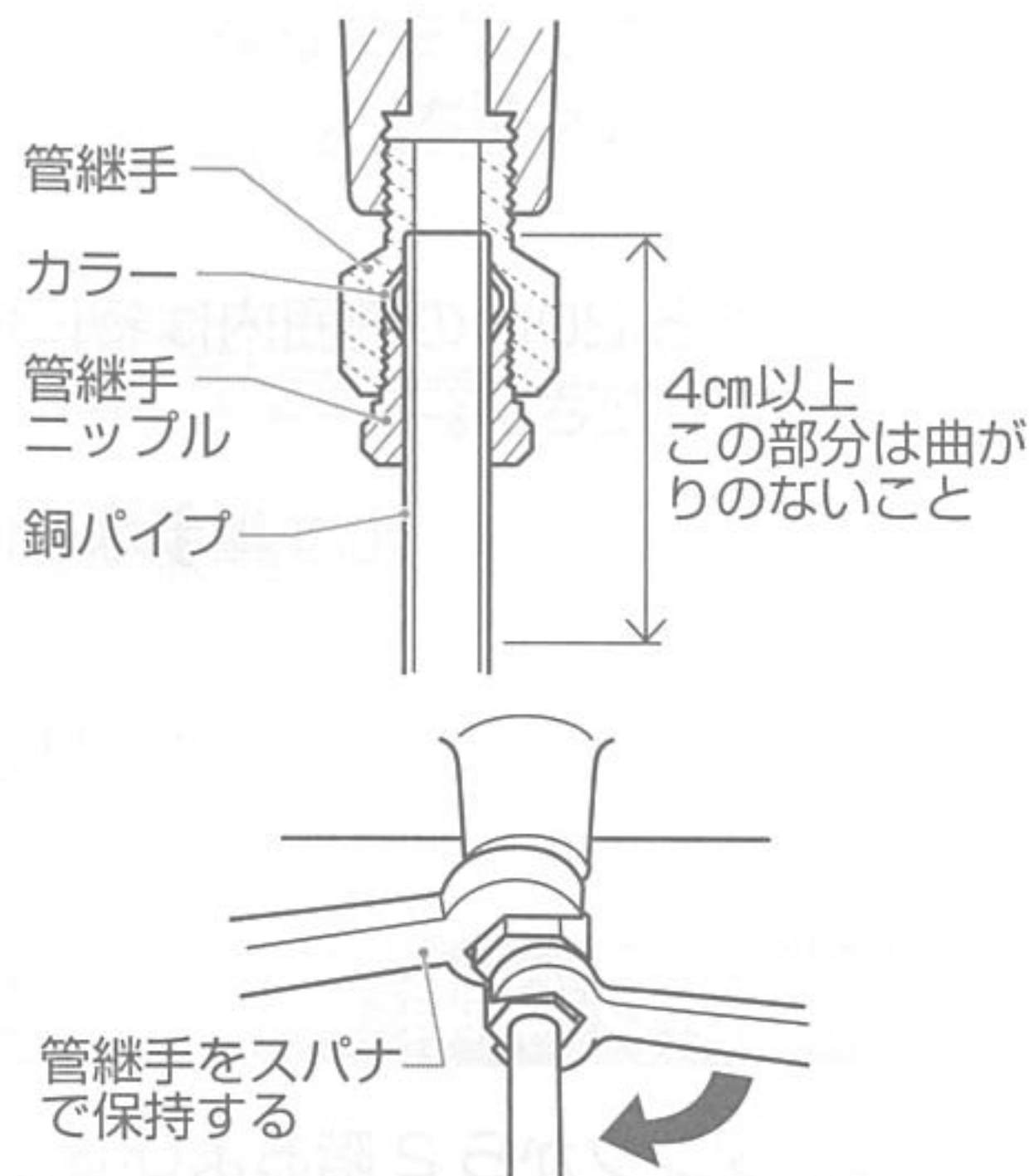
- オイルリフターへの銅パイプ接続は、次の要領で行ってください。
(入口側も出口側も同じ要領で行ってください。)

①銅パイプを必要な長さに切断します。



②銅パイプを管継手ニップル、カラーの順に通します。

③管継手のキャップをはずしてから銅パイプを管継手に挿入し、銅パイプが突きあたって位置で、管継手ニップルを手で回らなくなるまで締めつけます。この後、管継手をスパナで保持しながら管継手ニップルを別のスパナで締めつけます。



注意

管継手ニップルを締めつけすぎますとカラーが割れる恐れがありますので、ご注意ください。

エアーロックについて

- 出口側の配管が長い場合、管路内の空気が抜けずに灯油の流れが悪くなる場合があります。(エアーロック現象) このようなときは、出口側の配管をできるだけ短くし、空気だまりができないようにしてください。エアーロックをおこしたときは、管継手ニップルをゆるめて空気を抜けやすくし、灯油が流れるようになりましたら、もと通りに締めつけてください。

据え付け・配管後の確認

①据え付け・配管・配線工事が終わりましたら、もう一度正しく据え付け・配管・配線がなされているか確認してください。

注意

電源コードが燃焼器具などの熱い部分などに触れていないか確認してください。

②オイルリフター各部および入口側・出口側などの配管各部から灯油漏れがないことを確認してください。

注意

配管された管や継手部の漏れ検査を行うときはオイルリフター内に圧力が加わらないように十分ご注意ください。万一、圧力が加わりますと故障の原因になります。

③配管内の空気抜きを完全に行ってください。

オーバーフロー管の配管

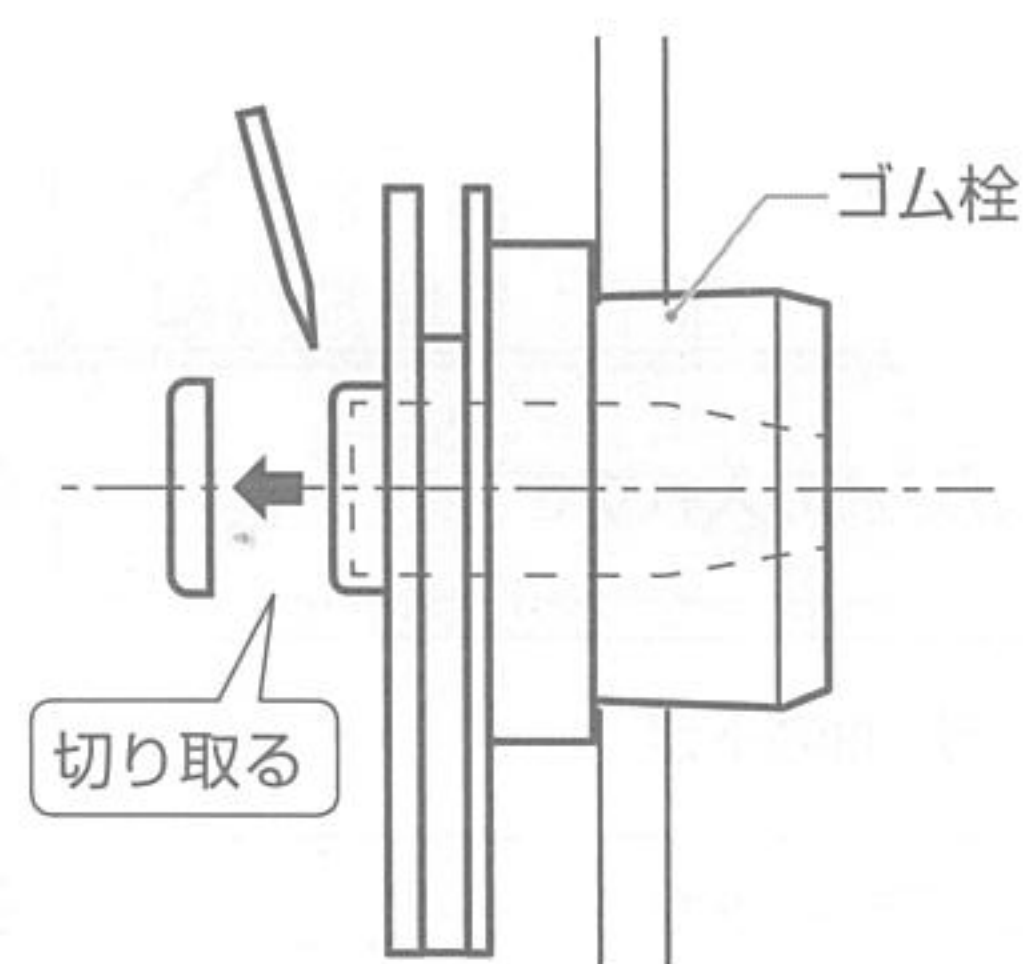
- オイルリフターは安全を考慮して、あふれ防止装置をそなえておりますが、より安全にお使いいただくためにオーバーフロー管は必ず配管してください。オーバーフロー管の接続口はタンク左側のゴム栓になりますので、下記のように配管してください。

注 意

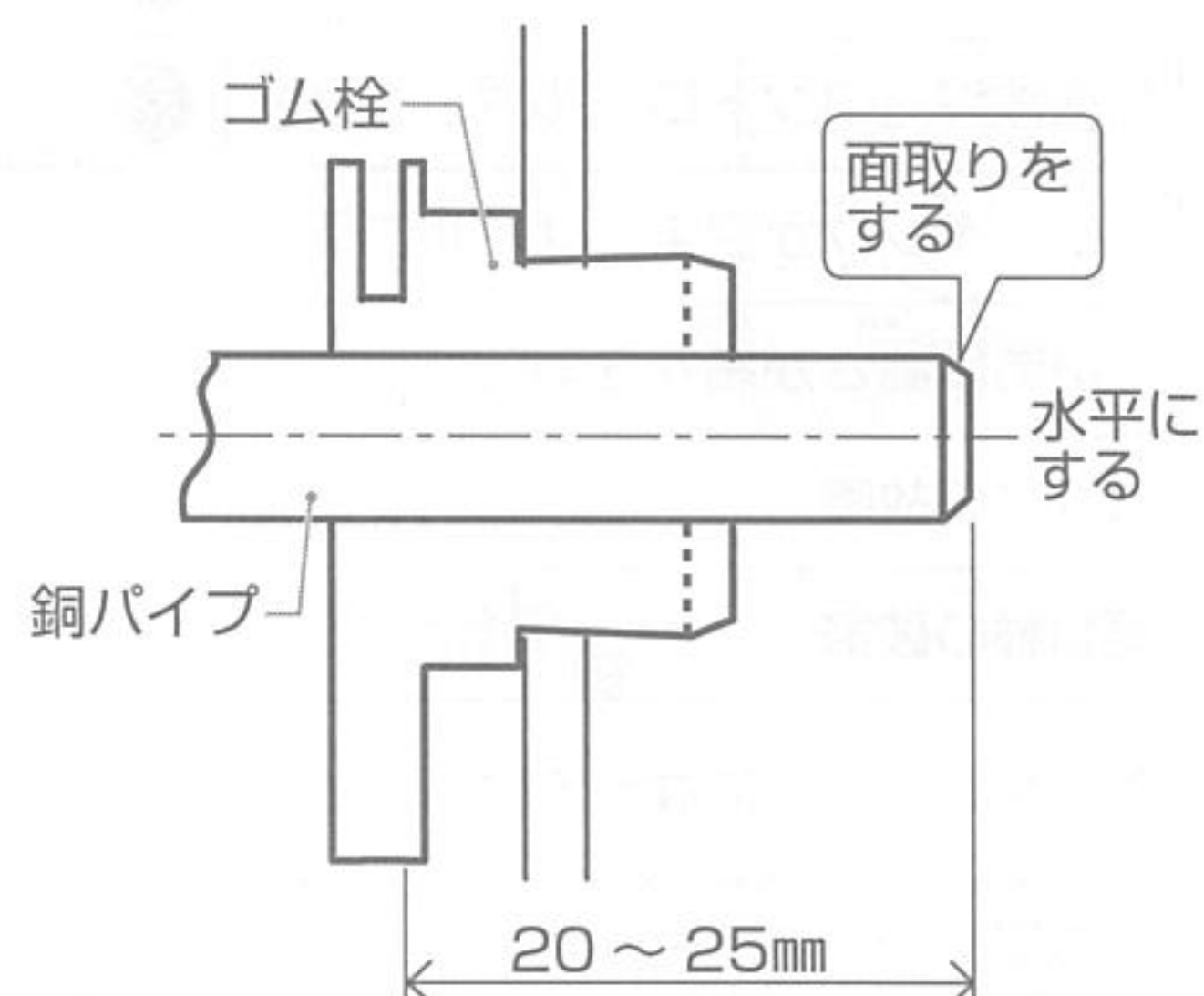
オーバーフロー管は外径φ 10mm、肉厚 0.8mmまたは 1.0mmの銅パイプを使用してください。また配管はできるだけ短くし、空気だまりができないようにしてください。

- ① 本体からカバーを取りはずします。

- ② タンクの左側面上部にはめ込まれているゴム栓の図の部分
をカッターで切り取って、穴を開けます。



- ③ 銅パイプ（外径φ 10mm）を必要な長さに切断し、面取りをした後、銅パイプとゴム栓に十分灯油をつけてからゴム栓の穴に差し込みます。



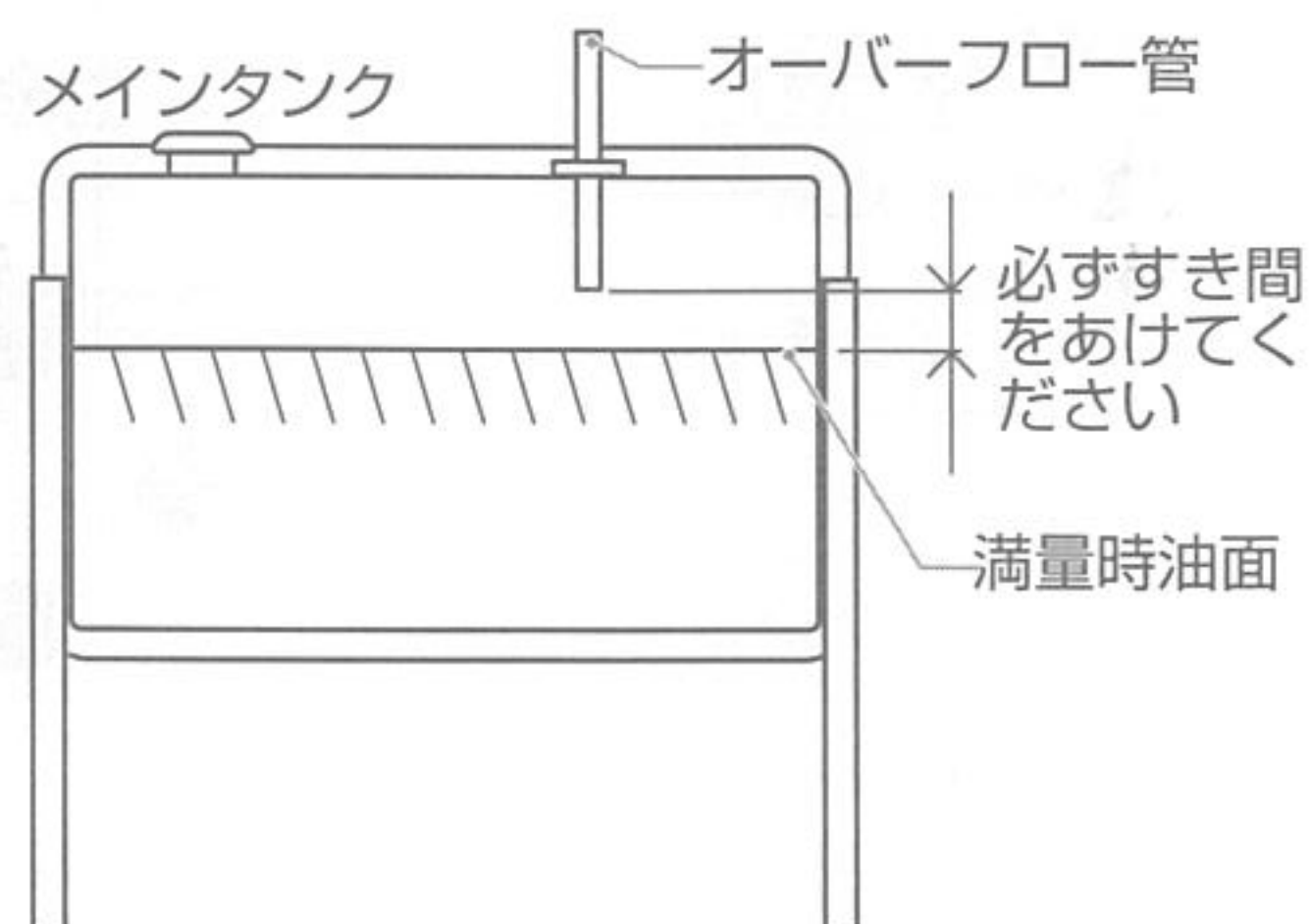
お願い

銅パイプは静かに差し込んでください。

- ④ 銅パイプの反対側をメインタンクに入れます。

注 意

メインタンクにオーバーフロー管を接続するときは図のようにメインタンクが満量になっても、オーバーフロー管とタンク内油面間にすき間があくように配管してください。すき間がないとオーバーフローした灯油がメインタンクにもどれません。



故障・異常の見分けかたと処置方法

■ 運転開始時や使用時に不具合が生じたとき、下表を参考に処置をしてください。原因のわからないときや、処置のむずかしいときはお買上げの販売店にご相談ください。

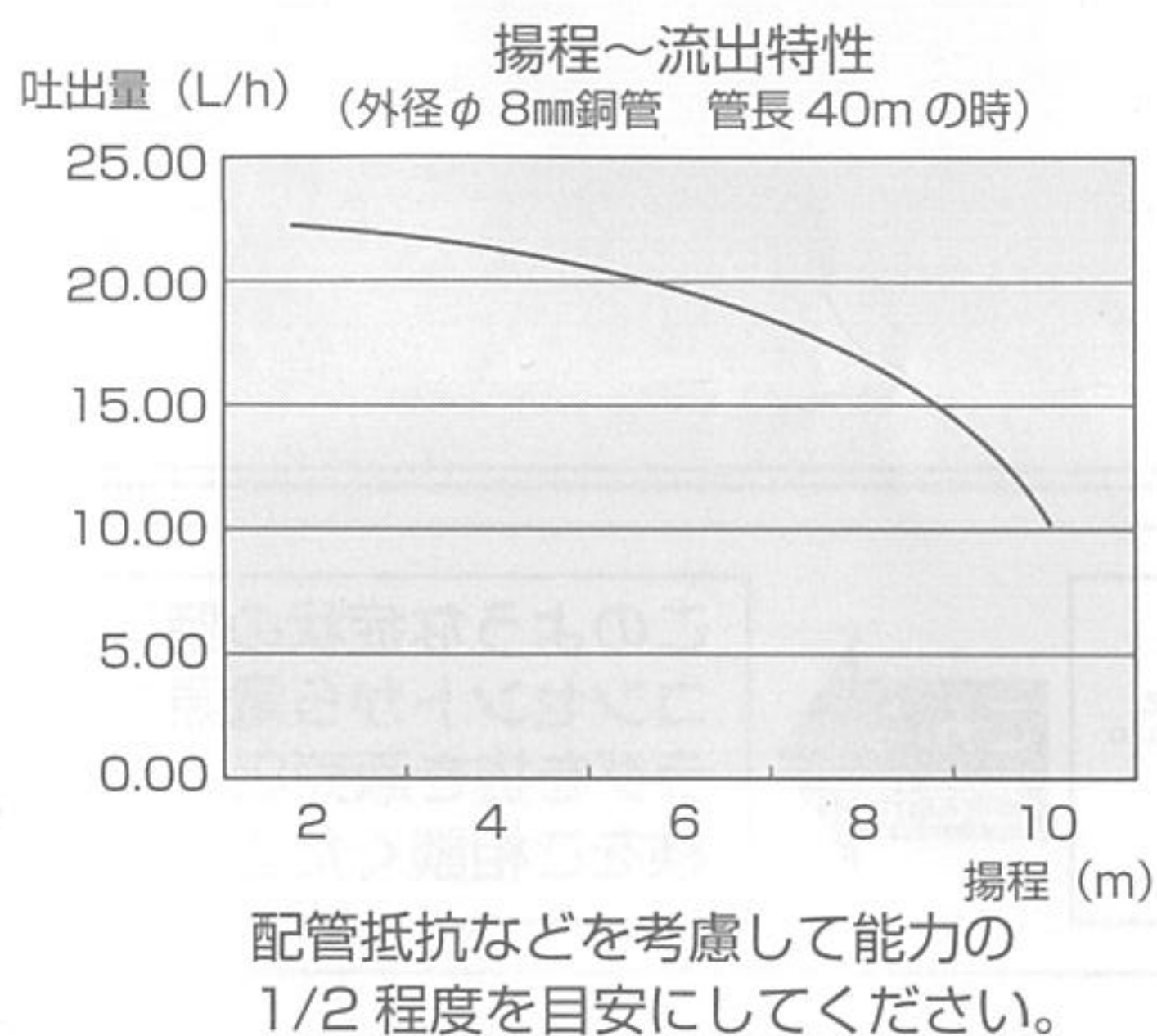
◎印：故障ではありません。よく確認してください。

●印：部品の故障と思われます。お買上げの販売店に修理を依頼してください。

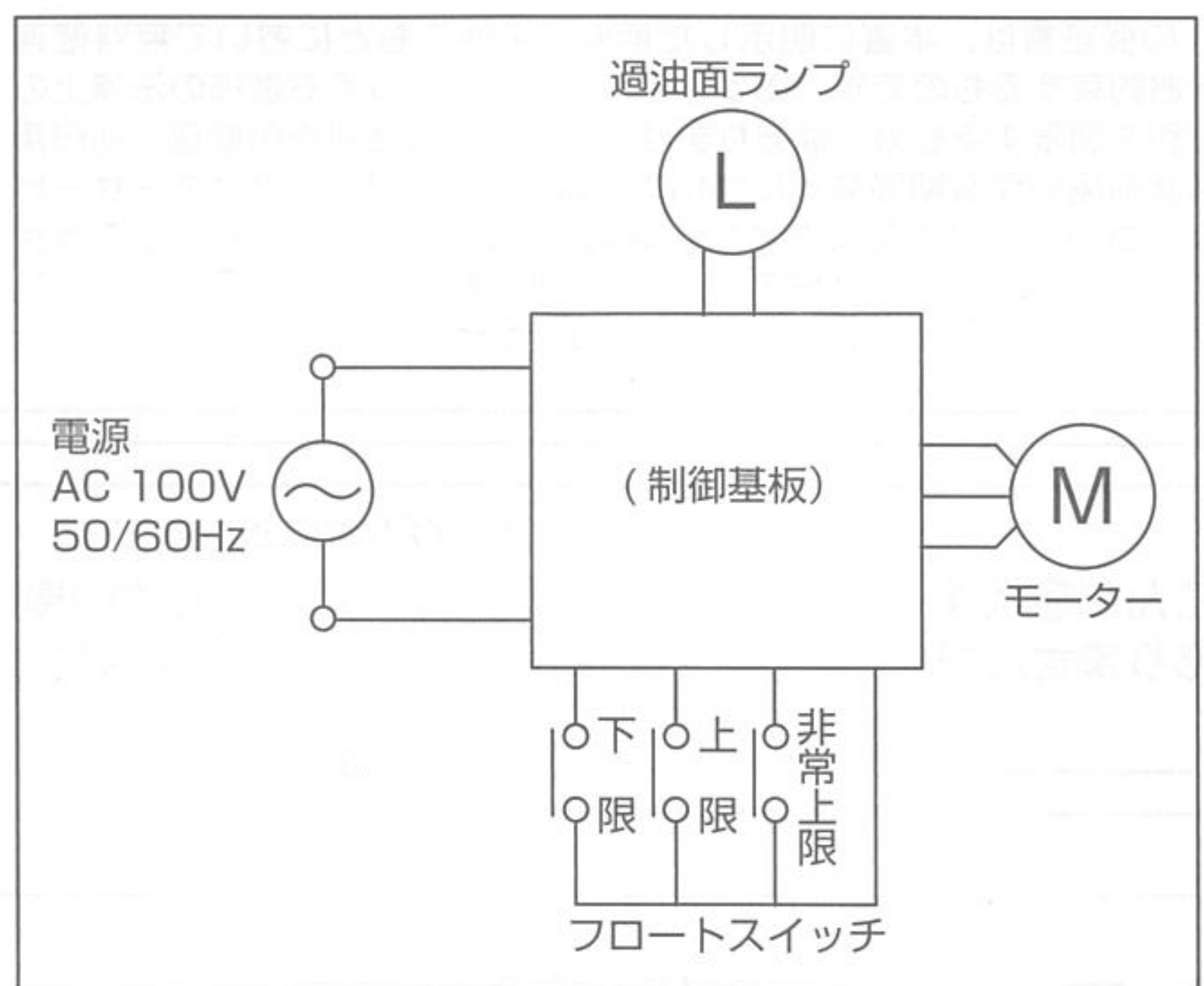
	運転開始時				使用時			処置方法	参照するページ
	■ 通電してもモーターが回転しない	■ 過油面ランプが点灯した	■ モーターが回転するのに灯油を吸いあげない	■ タンクに灯油はあるが燃焼器具に給油されない	■ モーターが連続回転し止まらない (油面計が下がってしまう)	■ 過油面ランプが点灯した	■ 一時電源を切っておくと再通電時モーターが連続回転する		
呼び灯油の入れすぎ	◎	◎						閉止弁レバーを『出』にし、灯油面を下げてから再通電する	5
呼び灯油の不足			◎					規定量の呼び灯油を補給する	4
ポンプのロック	●							ポンプを交換する	
モーターの故障	●							モーターを交換する	
基板故障（コントロールボックス）	●				●	●		基板を交換する	
メインタンクが空またはバルブ閉			◎		◎			給油する・バルブを開く	5
吸いあげ高さが高すぎる			◎		◎			吸いあげ高さを低くする	9
ポンプの故障			●		●			ポンプを交換する	
駆動軸の破損			●		●			駆動軸を交換する	
閉止弁が『止』になっている				◎				閉止弁レバーを『出』にする	4
入口側配管のエアリー漏れ			◎		◎			漏れ部分を修理する	11
出口側配管のエアリーロック				◎				出口側の配管のエアリー抜きをする	11
出口側配管の詰まり				◎				詰まりを直す	
フィルターが目詰まりしている			◎		◎			洗浄する	6
非常上限スイッチ故障		●				●		フロートスイッチを交換する	
下限スイッチの故障	●							フロートスイッチを交換する	
上限スイッチの故障		●				●		フロートスイッチを交換する	
逆止弁からの漏れ							●	逆止弁を交換する	
無通電で燃焼器具を使用したため油面が下がった							◎	再運転させる	5

仕様

形式	EP-204
種類	落差式
供給燃料	灯油（JIS 1 号灯油）
揚程	最高 10m
供給能力	19L/h（揚程 6m）
電源	AC 100V 50/60Hz
消費電力	23/22W
タンクの容量積	2.2L
安全装置	あふれ防止装置・電流ヒューズ・モーター過熱防止装置
外形寸法	224（幅）× 114（奥行）× 304（高さ）mm
重量	約 3.5kg
配管方法	フレアレスジョイントによる外径φ 8mm銅管接続
付属品	ゴム座：3 個 座金：3 個 丸木ネジ：3 個 管継手ニップル：2 個 カラー：2 個 吸込試験具：1 個



配線図



アフターサービスについて

修理サービスについて

- ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または裏表紙のお問い合わせ先にご相談ください。
- この製品の補修用性能部品は、製造打切後最低 6 年間保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。
- 保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料で修理いたします。

オイルリフター 保証書

持込修理

製品名	オイルリフター	形式	EP-204
保証期間	本体 1 年間（消耗部品を除く）	※お買上げ日	年 月 日
※お客様	〒 TEL ご住所 お名前 様	※販売店	住所 店名 TEL 印

本書の※印欄に記入のない場合は無効となりますので、直ちにお買上げの販売店にお申し出になるか、またはお買上げ年月日・販売店名を証明する領収書などを添付してください。本書にご記入いただいたお客様の個人情報は商品の修理対応のために使用し、それ以外に使用したり第三者に提供することは一切ございません。

本書は、本書記載内容で無料修理させていただくことをお約束するものです。

- 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内（お買上げ日から 1 年間）に故障した場合には、商品と本書をご持参のうえ、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。無料修理をさせていただきます。
- ご転居・その他などで、本書に記入してあるお買上げの販売店に修理を依頼できない場合には、下記の連絡先にお問い合わせください。
- 保証期間内でも、次の場合には有料修理となります。
 - (イ) ご使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買上げ後に落とされた場合などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災・公害・異常電圧および地震・雷・風水害その他の天災地変など外部に原因がある故障および損傷。
 - (ニ) 業務用または一般家庭用以外にご使用の場合の故障および損傷。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にお買上げ年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合または本書に記入がなくお買上げ年月日・販売店名などを証明する領収書などがない場合。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

修理メモ

★この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間などについて、詳しくは P.14「アフターサービスについて」をご覧ください。なおご不明の場合はお買上げの販売店、または当社（〒387-8603 長野県千曲市雨宮 1825 TEL 026(272)4111(代)）にお問い合わせください。

こんな症状は
ありませんか

- ・ 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ・ 本体が異常に熱かったり、こげくさい臭いがする。
- ・ 製品にさわるとビリビリ電気を感じる。
- ・ その他の異常や故障がある。

こんな
ときは

このような症状の時は
コンセントから電源プ
ラグを抜き販売店に点
検をご相談ください。

 エムケー精工株式会社

〒387-8603 長野県千曲市雨宮 1825
TEL 026(272)4111(代)
FAX 026(274)7089(代)

[支店]

札幌支店	〒004-0841	札幌市清田区清田一条1-9-21	TEL 011(881)7311
仙台支店	〒983-0023	仙台市宮城野区福田町4-14-22	TEL 022(258)3861
東京支店	〒125-0062	東京都葛飾区青戸8-3-5MK東京ビル3F	TEL 03(3604)6441
静岡支店	〒422-8035	静岡市駿河区宮竹1-13-5	TEL 054(238)0111
新潟支店	〒950-0923	新潟市中央区姥ヶ山2-18-15	TEL 025(287)0911
長野支店	〒387-0007	長野県千曲市大字屋代4299-1	TEL 026(272)8701
名古屋支店	〒453-0855	名古屋市中村区烏森町6-109	TEL 052(461)7261
金沢支店	〒920-0025	金沢市駅西本町2-8-8	TEL 076(264)1115
大阪支店	〒564-0043	大阪府吹田市南吹田3-6-4	TEL 06(6386)5800
四国支店	〒761-8062	高松市室新町3-5 B棟102	TEL 087(868)6781
広島支店	〒731-0138	広島市安佐南区祇園3-36-28	TEL 082(871)7355
福岡支店	〒812-0061	福岡市東区筥松1-2-31	TEL 092(612)1077